

令和5年度「健康都市に関する懇談会」 会議要旨

1 開催日時

令和6年2月19日（月）

開会 午前9時

閉会 午前10時40分

2 開催場所

尾張旭市役所 3階 302・303会議室

3 出席した構成員（10名）

柳澤理子、森田絹代、水野恵介（代理出席）、福嶋喜美子、星野幸子

秋田喜代己、森下眞美、若杉浩二、松尾亮太、徳増とし子

4 欠席した構成員（3名）

浅見 誠、野々山聖子、渡邊安正

5 傍聴者数

0名

6 出席した事務局職員

健康都市推進室長 豊田定史、係長 柳田麻維、主事 石川礼奈

7 議題

(1) 健康都市の推進状況・令和5年度の取組・今後の予定（報告）

(2) 健康都市プログラムについて

8 会議の要旨

1 開会
・健康都市推進室職員の紹介 ・資料の確認 ・会議進行方法の説明
2 議事
(1) 健康都市の推進状況・令和5年度の取組・今後の予定（報告）
・事務局から、資料に基づいて説明。 ・座長の進行のもと、各構成員から次のとおり意見が出された。

●資料4 ページの2つ目に「保健・医療とは無縁であった活動領域の人々にも健康の問題と関わってもらい（以下、省略）」とあるが、この人々にどのくらい重きを置いているか。

「お出かけウォーキング」の報告をきくと、平日に開催されていて、この人々は中々参加しづらいように思う。この人々を巻き込むのは難しいことだと思うが、あさひ健康マイスター手帳は、幅広い年代が参加できて良いと感じた。

（事務局）「お出かけウォーキング」は、過去に日曜日に開催したこともある。頂いた意見を参考に、平日勤務されている人でも参加できるような環境づくりを今後検討する。

●同じく4 ページの2つ目に「…まちそのものを健康にし、そこに暮らす都市住民の健康を確保しようとする取組を推進（以下、省略）」とあるが、都市住民等の範囲としては、住んでいる人だけか、幅広く、通勤などで市と関わる“関係市民”までのことをいうのか。

（事務局）あさひ健康マイスター手帳（以下、マイスター手帳）は、どなたでも参加可能。市民だけでなく、市外の人でも尾張旭市に住みたくなるような施策もすすめている。いただいた御意見を参考にする。

●国際大会や視察で、他国の健康都市と、健康に対する意識の違いなど感じることはあったか。

（事務局）WHO西太平洋地域の本部があるマニラ市などでは、開発途上国目線の健康施策として、下水道の整備など公衆衛生が注目されている。一方で、11月に視察に来たWHO欧州地域の一部の健康都市では、ジャンクフードを食べると子どもに悪影響を及ぼすなど、食に対する考え方など、日本より進んだ施策もあるように感じた。各国の取組を聞いて、参考にしていきたい。

事務局の話聞き、内々で施策を進めていくのではなく、他国など外にも目を向けて参考にしながらすすめることに意義があると感じた。

●逆に、本市や日本が優れていると感じることはあるか。

（事務局）例えば、市営バスあさび一号の運行についてだと、過去にインドでの発表にて評価をいただき、WHOによる表彰も受けるなど、誇れる部分だと思う。

●他市の人に尋ねられたため、マイスター手帳はどなたでも参加できるか再確認したい。

（事務局）どなたでも参加可能。市外の人も参加しているので、ぜひ広めていただきたい。ただし、マイスター表彰のみ、市内在住・在学・在勤の人が対象。

●4 ページの2つ目に、「…都市住民の健康を確保しようとする取組」とあるが、健康づくり推進員は、筋トレ・ウォーキング・笑いと健康（健康講座）の3本柱で活動している。ウォーキングを毎月1回月曜日に実施するほか、らくらく筋トレ教室を公民館や集会所で開催している。笑いと健康については、令和6

年2月1日に健康講座を開催した。よければぜひ参加してほしい。
●市営バスあさび一号について、ハード面のやさしさが足りていないように思う。低床車のような、人にやさしい車両の導入を担当課にアプローチいただきたい。近隣市では低床車を導入しているため、検討いただきたい。
(事務局) いただいた御意見は都市計画課に伝える。
ぜひ伝えてほしい。

(2) 健康都市プログラムについて

・事務局から、資料に基づいて説明。

・座長の進行のもと、次期健康都市プログラム策定にあたり、所属団体の活動内容や課題、昨今の社会の課題等を踏まえながら、各構成員から次のとおり意見が出された。

●健康づくり推進員では、「寝たきりにさせないまちづくり」として、長年すめてきた「らくらく筋トレ体操」が、令和2年度に第9回健康寿命をのぼそう！アワードの生活習慣病予防分野で「スポーツ庁長官優秀賞」を受賞した。その後、京都市や福岡市など多くの市の関係者が視察に訪れ、蒲州市や各務原市などと交流会等も行っている。らくらく筋トレ体操に参加するのは高齢だが、健康都市宣言をしている尾張旭市では、健康でい続けるために、小さい頃から「子どもたちの筋力」を鍛える必要があると思う。小学校の部活がなくなっている今、保育園の遊びの中で筋トレをしたり、小・中学校の授業の一環として、健康づくり推進員が出向いて教えることも可能だと考える。また、市民全員が健康づくりに参加できるとよいと思う。

●スポーツ推進委員は、来年度4月から主に4つの柱で活動しようと考えている。1つ目は「継続的な参加の促進」。4月はいつも体験会などの参加人数が多いが、だんだん人数が減ってしまうので、スタンプラリーなどを取り入れて継続的に参加してもらいたいと考えている。2つ目は「子どもの体力向上」。愛知県では、子どもの体力測定結果が、46位や47位で、スマホの使用時間は統計で平均4時間らしく、体力づくりが必要と感じる。そのため、教育委員会に、子どもたちのコーディネーション能力を養うことを勧めている。3つ目は「30・40代の親世代の健康づくり」。スポーツクラブあさびーでも活動しているが、親は子どもを送ってすぐ帰ってしまうため、親世代も一緒に参加してもらえるようなニュースポーツ体験会などを開催していく。50・60代は自ら健康づくりに取り組む印象。4つ目は「障がい者の参加」。ニュースポーツ体験会では、車いすの人や認知症の人なども参加できるよう実施しており、継続していく。一番大事なことは、継続して健康づくりをしていくことなので、継続するために魅力ある方法を検討していきたい。

●マイスター手帳を最近持っている人が増えた。シニアはもともと持っている印象だが、ファミリーの参加が増えたと思う。スポーツ推進委員などの活動でもあさび健康マイスター事業の参加を促進していきたい。

●尾張旭市地域活動連絡協議会では、令和7年度に設立50年を迎え、会員さ

んの高齢化などが課題だが、色々な活動をしている。その際に、子どもだけでなく母親とも関わるが、子どもの体力が落ちているとの声をきく。一部、習い事などで体力づくりができる家庭もあるが、経済格差等でできない家庭もあり、問題に思う。近い将来、中学校も部活動がなくなるときくが、やはり若いときから体力をつけたいといけなと思う。

●商工会の女性部の事業では、コロナ禍以前のイベントができるようになった。「転ばぬ先の健康」として、健康セミナーや市民祭では食の広場を開催するなど、多くの人を訪れた。研修やボーリング大会、管理栄養士を招いた講演なども実施し、皆で声をかけ合い、健康増進を図っている。また、継続的に実施していきたいと考えている。しかし、会員数の少なさが課題。色々な人に声をかけて、これからも様々な事業に携わりたい。

●健康都市プログラム（以下、プログラム）は、当たり前ではあるが市の事業が中心。社会福祉協議会では、社会福祉に関するボランティア団体とも関わる。行政が行っている事業のほかに、子ども食堂など団体や民間活動に目を向けてもいいのではないかとと思う。子どもだけでなく高齢者も参加できるような地域サロンをボランティアでやっているところが多く、ボランティアの活動なども、プログラムの中で章を別立てにするなどして入れることも検討していただきたい。団体のやる気・継続的な活動につながる。

●健康づくり事業に、何も手助けしなくても自ら参加できる人はいいが、それができずに家にこもってしまう人が点在している。1つの場所に集まって、自分の状況や家にこもっている人の情報などを話すボランティアサロンに会員として参加しているが、自ら動かない人をいかに動かして、サロンまで歩いてもらい、サロンをきっかけに外に出てきてもらうかを考え実施している。ボランティア会員自体も高齢で事故等を防ぐため、参加者の送り迎えなどはしていないが、もっと市全体にそういったサロンができれば、サロンまでの歩く距離が短くなり、外に出てもらいやすくなる。健康都市では、健康で動ける人ばかりではなく、健康をどうしたらいいかわからない人たちをどう仲間に入れるか考えてほしい。

（事務局）健康づくりについて、背中を少しでも押せるように、あさひ健康マイスター事業などを実施しているが、マイスター手帳でもできる人とできない人はいて、できない人までカバーできるような健康都市づくりをしていきたいと思う。お知恵があればぜひ教えてほしい。

●もっと横のつながりを意識したイベントを実施したり、関係する皆で、健康づくりに対する考え方などを共有したい。ウォーキングをするにしても、血圧を測ってから、ごみを拾いながら歩くなど、健康都市・健康課・文化スポーツ課・市民活動課・環境課など、色々な横のつながりで連携して実施するといった考え方を行政には持ってほしい。

●自分の住む地域では、自治会と小学校がコラボして、「地域連携」として、講座などを行っている。親子での参加も多く、抽選になるほど人気。地域の結び

つきが強いことはこれからもとても大事なことを考えるため、推進していきたいし、推進してほしい。

●地域活動は、リーダーによるところがどうしてもあり、協力者をいかに取り込めるかということも大切であるし、基本、毎年、会長など人が変わるため、活動の継続性・積極性が課題。今、自分の地域で自治会活動として取り組んでいるのは、シニアさんを積極的に取り込み、交流会を実施したり、子ども会が減っているため、自治会として働きかけをしながら行事をできないかと思っている。一方で、自治会は会費制で、自治会のイベントに誰でも参加してよいのかという考え方もあり、個人としては、誰でも参加してよいと思っているが、プログラムの中でぜひ自治会の活動にもフォーカスいただき、誰でも参加できるようにしようというようなポリシーを行政として打ち出していただけたらと思う。

●あいち尾東農業協同組合（以下、農協）では、近年、ウォーキング教室や体操教室、食に関する料理教室などが人気がある。安心・安全な自分で育てた野菜を食べることや体を使って汗をかき日光を浴びる農作業に関心も集まっている。農協では、農業を通じた健康推進を発信している。スポーツだけでなく、農業をして体を動かすことなどでも健康になる。新鮮な野菜を食べることも健康につながる。

●少子高齢化が進んでいて、10年先の人口動態の変化を踏まえたプログラムを策定する必要があると思う。ボランティアも高齢化しているなど、健康づくりを持続可能にしていくためには、人口変化を考慮に入れたプログラムにするとうい。

●30・40代に向けた健康づくりとして、親子で参加できる行事以外に、マイスター手帳など、LINEのスタンプカード機能を使うなどして、「デジタル化」をすると参加人数も増えて良いと思う。SNSを使ったPRなど、若者向けのPRも方針に盛り込むのはどうか。

●LINEのメニューボタンの一つに、「健康都市」があると良いと思う。

●マイスター手帳に載っているイベントなどを市広報誌で調べて参加していると他の構成員から話を聞いたが、毎日見る「ごみ出しカレンダー」に、この週はこのイベントがあると一目で分かるようなイベントの表示を付けたり、マイスター事業の関連情報などを載せるとどの年代の人でも見ると思う。

●令和6年4月29日に、お手玉積みや握力測定など「健康まつり」を実施する。お誘いあわせの上、ぜひ参加してほしい。

対象にアンケートを実施している。市のホームページで集計結果を公表している。

・最後に、各構成員の意見を、座長より次のとおりまとめられた。

●プログラムには今まで高齢者の人が参加しやすいような健康づくりの内容が多かったが、子どもや親も参加できる事業にも力を入れてほしい。

●なかなか健康づくりに参加できなかった・しにくかった人へのアプローチも

必要。

- 行政や学校だけでなく、市民の力をもっと使いながら、健康づくりをすすめていけるとよい。
 - 10年先を見据えた持続可能なプログラムにする必要がある。SDGsの推進やITなどを活用した事業やPRなどを盛り込むとよい。
- ぜひ、今回の意見等が新しいプログラムに反映されたら良いと思う。

3 その他

・事務局から、当日配布した冊子（あさひ健康マイスター手帳・A-map・名鉄のハイキング）の紹介と4月29日開催の第20回あさひ健康フェスタの案内を実施した。

最後に、次のとおり、会議録公開等について連絡をした。

本日はいろいろな御意見をいただき、ありがとうございました。

会議の中で伺った意見は、事務局で整理し、今後の健康都市づくりに反映していきたいと思えます。また、本日の会議録につきましては、調整の上、後日送付させていただきます。皆様の御了解を得たのち、市ホームページに公開いたしますので、よろしく願いいたします。最後になりますが、昨年につき、構成員として2年間、御協力いただきありがとうございました。今後も健康都市の取組について御意見・御感想をいただけますと幸いです。